

京都ボランティア協会 2010年度事業報告

目次:

I 事業

1.【ボランティアコーディネーター事業】	…1ページ	【別添資料1】
2.【援助・交流事業】	…2ページ	【別添資料2】
3.【広報事業】	…3ページ	
4.【研修事業】	…3ページ	
5.【研究事業】	…4ページ	
6.【地域密着型外部評価、 介護・福祉サービス第三者評価、介護サービス情報の公表調査】	…5ページ	【別添資料3】
7.【企業・労働組合の社会貢献活動の推進】	…5ページ	
8.【ボランティア団体・NPO団体、当事者支援事業】	…6ページ	

II 組織・運営

1.【組織・運営体制整備】	…6ページ
---------------	-------

I 事業

【1. ボランティアコーディネーター事業】

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	決算(千円)	成果・課題	改善策
ボランティアコーディネーター相談の実施	継続	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアを求め人、ボランティア活動を求める人の需給調整を行う。 ・生活・福祉ニーズの把握と分析 ・ボランティア登録者の継続と増加をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ボランティア相談の実施(団体活性化などの相談、ボランティア保険相談、講師派遣等) ②ケース検討・情報交換会議の定例化 ③関係機関情報交換会議への参加 ④ボランティア交流会の実施 ⑤「きょうボラ」の発行(季刊・速報版) ⑥大学等への事業紹介活動の実施(年間計画化) ⑦ボランティア登録者の増員 	収入 15 支出 1,520	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアコーディネーター相談等対応の実施/2306件、ボランティア相談の実施(団体活性化などの相談、ボランティア保険相談、講師派遣等)/310件 →ボランティア依頼者のリピーター登場 →相談や依頼等記録を残せなかった(数字に反映できず) ・ケース検討・情報交換会議の定例化/局内で定例化できず ・関係機関情報交換会議への参加/0回 →ケアマネや相談員とのつながりはできてきている。 ・ボランティア登録者交流会 ねこのてさろん(会員・登録Vとの交流)実施 ・「きょうボラ」の5回発行各2000枚 ボランティアと共に発送 ・大学等への事業紹介活動の実施/立命、華頂女子高 ・ボランティア登録者の増員/新規登録者の減少となる数字の詳細については【別添資料1】 	<ul style="list-style-type: none"> <ボランティア登録者増> ・ねこのてさろん等との合同で講座などを開催し、身近なボランティア活動紹介(グループ含む) ・ボランティア登録会、あるいは相談会の開催。活動により「人と会う楽しさ」をボランティア依頼者や活動するボランティアの生の声を届ける機会を増やす
		年4回程度					

	新規		⑧ボランティアコーディネーター事業体制の整備	在宅生活を支えるボランティアを必要とされる意義の再確認と「求められるボランティア」と「したいボランティア活動」双方にこたえられるコーディネーターの困難さがますます出てきたこと。
--	----	--	------------------------	--

【2. 援助・交流事業】

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	決算(千円)	成果	課題	改善策
第4回きょうボラふれあい祭開催	継続	4月～	・ボランティアスタッフ、関係団体、企業他との出会い、ネットワークを築く機会になるよう、当日参加はもとより企画、運営を協働する。	①ボランティアスタッフ学習会の開催	収入 2,046	①学習会開催できず ②委員会・準備委員会・振り返りの会合計13回 ボランティア作成・管理で各担当(市場等)をアピール・広報する。 ④景品・バザーの物品が少なく、特にバザーが品薄であった。黄色いレシートキャンペーン活動でのレシート金額から得られた食料品や日用雑貨の景品は毎年有難い。 広報ボランティアスタッフが少なく、ちらし作製はインターンやパンフレット担当スタッフが携っていった。他の団体・グループのイベントに参加しながら祭のチラシを配布した。入場者数約1,400人。協賛32、後援15。参加団体：ステージ14、市場27、子ども1、準備段階ボランティア延べ150人。 祭の記録・報告書の作成・ボランティア参加によりDVDの作成と共感・後援・参加団体等への配布。	事務的作業に終始し学習機会がとりづらかった ● 助成金等(準不同、敬称略) ※助成金 等(順不同、敬称略) 京都府「地域力再生」 322千円 京都府共同募金会 100千円 京都新聞社会福祉事業団 40千円 経糸の糸 200千円 黄色レシート贈呈金 80千円 バザー・協力抽選券売上 724千円 寄付金 22千円 祭収支報告(単位:千円) 収入計※ 1,488 支出 会場費 294 消耗品 180 通信費 130 リース代 18 広報費 271 交通費 100 景品・材料 95 打上会・交際費人件費 131 その他 19 支出計 1283 収益 205	学習会の必要性だけでなく実行委員メンバーの興味から出てくるテーマを話し合う 詳細については【別添資料2】
		開催時期・場所未定		②実行委員会の設置(企画・運営) ③祭のホームページの管理 ④バザー物品、抽選物品の確保 ⑤広報スタッフの配置 ⑥きょうボラふれあい祭の開催	支出 2,514			
企画等でのボランティア 活動者募集中								
				⑦祭記録・報告書の作成				
サロン活動「ねこのてさろん」の運営	継続	通年	・多様な興味、関心を持つ人たちとの交流を確保するため多様なメニューを確保する。	①単発活動企画の年間計画化 ②居場所機能の充実 ③既存活動グループの自主運営化 ④新規グループの開拓		お花見・環境整備(賞鑑賞)・夏祭り(でてこいランド)パーペーキュー交流会・きょうボラ祭・料理体験&交流会等で多数の参加者があり、老若男女・障がい者他と交流ができた。アウトドア企画に人気集中する。(ボラタス掲載)	ボランティアビューロでの「ねこのてさろん」の企画・参加は、社会人が多く既存活動グループでの自主運営は難しい。インドア企画リサーチ、充実と参加者募集方法(広報)に課題がある。人数が少ないとゲーム等が楽しめない。	「ねこのてさろん」の時間帯にミニ講座や体験講座等を設け、一般市民向け広報に力を注ぎ、間口を広くし、参加人数を拡大。広報活動を作るためにも早期準備・企画する。そのためのスタッフ充実。

ウエスグループへの支援	継続	通年 月2回 第2、4木曜	・活動歴25年近いグループであり、協会活動の支援者である。メンバーの高齢化により、活動の継続を目的に支援する。	①ウエス作業支援(ウエス販売含む) ②ミニバザーの実施支援 ③ウエスグループ&「よりあい」の場の充実 ④ウエスグループスタッフによる諸団体の啓発活動への参加・協力・支援(共同募金他)	月2回のウエス作業の他に青少年街頭活動等が積極的に行われている。作業場所である大徳寺ボランティア協会分室ではご近所との交流もされ、「よりあい」の場も充実している。	ウエスグループのボランティアメンバーを拡大する。	バザー物品の収集方法の検討。古着等中古品は見直さなければ在庫増大。一部を除き新品資料に限定するかを検討する。
-------------	----	---------------------	---	--	---	--------------------------	--

【3.広報事業】

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	決算(千円)	成果	課題	改善策
「ボラタス」他広報事業	継続	年4~5回	・「ボラタス」他の紙媒体による情報提供、並びにホームページにて情報の公表を行い会員ほかへの広報活動を行う。	①「ボラタス」の発行(年4~5回) ②「ボラタス」のDVD化 ③ホームページ管理 ④「季刊ボランティアきょうと」発行支援	収入 0 支出 532	ボラタス150号~153号発行。2010年度からボランティアコーディネート欄を追加した。新しいボランティアの寄稿を募った。	「ボラタス」のDVD化が未執行。「季刊ボラ」は今年度休止。	「季刊ボラ」の従来の内容をボラタスに取り入れる検討をする。ホームページを利用して広報活動を充実させる。

【4.研修事業】

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	決算(千円)	成果	課題	改善策
農村集落とのつながりを共創する一都会の私たちにできること	継続	8月	地域の過疎化や高齢化等からくる問題を探ると共に、地域の文化や自然、町おこし等を考える。	①「第3回きょうボラふれあい祭」でつながりのできた美山福居地区との交流継続を図る。②地域の過疎化や高齢化等からくる問題を探り、地域の文化や自然、町おこし等を考える機会をもつ。	収入 136 支出 89	①美山との交流 ②未執行	①祭を通じて美山福居地区と僅かな関係が継続したが、昨年度より交流人数が減少。	②地域課題は農村だけではなく、農村集落に限定する必要があったかどうか見直す必要がある。身近な地域に目を向けて交流を図ることで見えてくるものを探る。
記録手法・ITによる情報発信講座	継続	連続3日間	・活動記録技法の一つとして学習する。	パソコン講座—ボランティアグループ、NPO団体、事業所などを対象に実施する。多くの写真を20分ぐらいにまとめ、ナレーションや音楽、字幕を入れ見やすい記録の作り方を学ぶ。		未執行 パソコン講座—ボランティアグループ、NPO団体、事業所などを対象に募集をしたが参加人数が集まらず未執行。	参加者にパソコン持参という条件をつけるなど参加人数が少ない。スクリーン・プロジェクターを利用して講習等考えていく。	・活動記録技法の一つとして学習する方法(フォトストーリー)を2年間連続で開催したが、参加者が集まらない。2011年広報活動範囲を拡大し新しい技法を取り入れた講座にする。
障がい者ガイドヘルパー養成講習	継続	連続3日間	・障がい者対象介護技術学習機会の提供。	国基準に即した障がい者介護にかかる研修、終了後京都市承認書を発行する。(知的・全身性障がい)		未執行(全身性障がい者ガイドヘルパー着手中)	昨年度から京都市が「簡易ヘルパー養成研修」を開始、研修時間や受講料が安価となり参加者が呼び込めるかどうか。障害者施策の変化等情報に対応した講座作りの必要性がある。	従来の講座の中に現状の課題や講座には含まれていない内容も網羅して充実を図る。
華頂高等学校ボランティア講座への講師派遣	継続	通年・2クラス	・講座の企画・運営をコーディネートする。	高等学校3年生を対象にボランティア講座を担当。ボランティア活動を行っている個人・団体を招き活動紹介を行い、ボランティア学習に供する。		通年授業に14団体、延べ31人の関係者の参加を得てボランティア活動の実際を学び、並びに障害をもつ当事者から障害のことや、理解を得たい支援等の話が聞けた。授業後は感想文を求め理解状況を把握した。進路後の参考にしたい等と好評であった。2011年度から1年生の授業の担当の依頼を得た。	夏休み等実際にボランティア活動の参加を勧めたが、3年生であり補習等で参加に繋がりがたい。	通年授業は担当講師に負担が多く、複数メンバーで取り組むことを検討したい。

高齢者・障がい者・こども分野講座実施	継続	2月・3月	・各々の領域の現場で当面している課題を現場から学ぶ。	各領域の課題を学び、もってボランティアグループ、NPO団体との連携を図る。	「音楽療法ってなあに」ミニ講座開催。「歌とお話(前例がなければつくればいい)」の講座開催	広報活動が弱い。会員やボランティアの求めている企画の調査とともに、社会が求めている「講座」を検討する。	広報活動を充実させる。企画内容や演目についてはボランティアの広報でアンケートを採る。
福祉史跡&事跡ガイド養成講座実施	新規	12月・2月	・京都の福祉史跡&事跡を学習し市民に広く紹介する。	既存の冊子「福祉史跡&事跡」を中心に説明・案内できるガイドの養成を図る。	旅行会社トップツアーとの取り組みで2010年12月・2011年2月に他府県の福祉関係グループは史跡ガイドをした。	現在、史跡ガイド担当者は2名。2011年度は福祉史跡&事跡ガイド養成講座の実施をする。	福祉史跡&事跡ガイド養成講座の実施をする。
ボランティアコーディネーター講座	新規	未定	・地域で生じている様々な生活・福祉ニーズを理解する。	人と地域を結ぶコーディネーターの役割を学ぶ。	未執行	地域でボランティアコーディネーター(調整役)が求められているのか、事前調査ができなかった。協会自体が地域とのつながりが弱い。	率先的地域活動事例などを学び、実際実務に関するコーディネーター等から情報収集する。

【5. 研究事業】

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	決算(千円)	成果	課題	改善策
京都の農村集落とのつながりを共創する	継続	調査準備	・農村集落の課題について学ぶ。	選定した地域に対し、検討チームをつくり、課題等の調査・検討を行う。	収入 39 支出 0	未執行	検討チーム作りができなかった。	地域課題は農村だけではなく、農村集落に限定する必要があったかどうか見直す必要がある。
学生インターンシップについて	継続	調査	・多様な人材との活動を目指し、特に学生層との協働、参加を図る。	関連情報の収集と、プログラム化。		関連情報の収集。立命館大学ボランティアコーディネーター養成研修2名受入・龍谷大学短期大学部実習生1名受入。ボランティアグループ運営についての提案があり次年度へ活かす可能性がある。	学校側との密な連絡調整。多様な人材向けの実習内容かどうかの検討。	多様な人材の受入内容のプログラム開発、受入の工夫と充実。
施設における技術ボランティアコーディネーターの実態について	継続	準備期間	・担当者向けコーディネーター学習	最近増加傾向にある技術系ボランティアの施設における効果的な参加について、施設コーディネーター担当者と検討機会を設ける。活動中のボランティアのアンケートもあわせて行う。		未執行	情報収集できず、実際に「技術系ボランティア」が増加しているのかさえ検討できなかった。	施設系へのボランティア紹介等はボラセン初め他センターが行っていることでもあり、遅れて参加する意義があるかどうか見直す必要がある。社協等との情報交換による情報収集。

【6. 地域密着型外部評価、介護・福祉サービス第三者評価、介護サービス情報の公表調査】

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	決算(千円)	成果	課題	改善策
地域密着型外部評価事業の充実	継続	通年	・質の高い評価を目指す。 ・公平・公正な調査を目指す。	・評価員の増員 ・評価者の研修体制の充実(別添資料:3)	収入 4,850 支出 4,406	前年度より3事業所増となり、計53事業所となる。評価員も8名が養成研修を修了して計14名となり、質の高い調査員が確保できた。	・事務量に比して利益率が低すぎる。改善を要する。 ・主任評価員の育成が急務であるため、協会独自の研修を強化し、受講を必須とする。 ・審査会の運営及び人員も含めて再検討する。	事業推進のための[強化プロジェクトチーム]を立ち上げ、営業・研修・報酬・受審料など総合的に見直しを図る。
介護サービス第三者評価事業の充実	継続	通年	・地域における社会福祉の推進 介護や福祉サービスの質を高め、広く市民の介護・福祉サービスの選択に資することに携わる活動です。介護保険制度や事業に関心と、理解を深めること。事業の重要性に鑑み、引き続き取り組んでいく。		収入 2,360 支出 1,987	受診件数が前年度より1事業所増になり、9事業所となる。登録評価員は26名。		事業所(大法人など)、支援機構(府社協が事務局)に対して、協会の理事、審査委員、事務局などが一体となり、取り組む。
福祉サービス第三者評価事業の充実	継続	通年	・協会の評価事業を実施する目的は、単なる収益のみでなく、ボランティアの理念として、一般に「自発性(自由意志)」「公益性(公共性)」「創造性」「先駆性」「社会開発性」「継続性」な活動を展開するところに特色がある。利用者との関わりの中で得た経験と知識は他の組織にはない独自固有のものである。標準化された評価に加えてボランティアの独創的な視点からの助言や情報提供ができる。ボランティア活動の事業を支えるための重要な財源でもある。公益法人化に伴いさらに公益性のあるに事業として調査員にも協力を求めている。 ※調査員(者)は全員が協会会員で協会の事業を支援している。		収入 7,192 支出 5,748	前年度より4事業所増になり、6事業所となる。受審料が高い福祉サービスが貢献、大幅増となる。登録評価員は21名。 調査員登録者は32名であるが、実質稼働は15名で当初の見込み通り300事業所を実施しました。		平成23年度より制度そのものは残るが、調査情報がなくなり、調査機関としては、実質廃止同然である。
介護サービス情報の公表調査事業の充実	継続	通年						
評価・調査事業の管理・運営体制の整備	継続	通年	・効率的な事務運営	・評価・調査機関としての事務体制の整備				

※確認事項 評価・調査事業に携わっている調査員(者)は、当協会の会員に加入していただいています。もし現在未加入の方は、事務局にご連絡下さいますようお願い致します。

【7. 企業・労働組合の社会貢献活動の推進】

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	成果	課題	改善策
企業・労働組合との協働と交流	継続	通年	・祭等のイベントへの参画・参加にてボランティア活動体験をする。	協会事業にかかわる企画に参画し、多様なボランティアとの協働作業を通し地域のニーズを理解し、社会貢献のあり方・意義を学ぶ機会を得る。一方協会からはボランティア活動紹介や、講師派遣等にて支援する。	祭協賛団体の継続参加。	協賛団体ボランティア参加の減少。 企業側ニーズの情報収集不足。	祭に特化せずボランティア情報等を流せるような工夫。あるいは企業の社会貢献活動事例紹介など。
	継続	通年	北大路ビブレ幸せの黄色いレシートキャンペーン	毎月11日10時から18時まで北大路ビブレ食品売場近くで㈱イオンが社会貢献活動を目的に実施(開始2007年)	2010年度は合計121,400円をギフトカードで受領(2011. 4. 11)(第5回きょうぼうふれあい祭抽選券景品に60,000円と協会事務用品に61,400円に使用予定)。	キャンペーンの為にボランティア協会参加延べ48名。気軽に参加できるボランティア活動の一つであるが、現在ボランティアが集まらず職員で対応している為、13時～15時の屋間の時間帯の参加がいない。	一人でも多くのボランティアを求めていく。一般市民への協会活動の広報・啓発機会と促れ、地道な活動を行なう。
社会貢献推薦者表彰報告				当協会の大原加津巳氏(協会のボランティアスタッフ)と田中加代子氏(誕生日ありがとう京都友の会のボランティア)が障がい者等の支援活動に対し、その功績が認められ京都市社会福祉事業奉仕活動ボランティア部門において表彰された。	今後に向けて地道なボランティア活動を継続してこられた方達の活動をアピールしていくことは協会の使命である。先進的活動実践には常に関心を寄せ、情報収集していきたい。 ※身近な場所で、継続して福祉等活動をされている方の情報をご提供ください。		

【8. ボランティア団体・NPO団体、当事者支援事業】→コーディネートや援助交流事業(再掲)

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	決算(千円)	成果	課題	改善策
交流機会の確保	継続	通年	・協会が保有する資源・情報の提供による支援	①交流機会の確保 ②りすの会等への活動支援 ③ボランティア団体・NPO団体・当事者に対する相談活動の実施 ④ボランティア相談の実施		登録団体行事への参加やボランティア紹介。	情報提供範囲が狭い。	ボランティア団体等を紹介できるような企画(体験講座的なものを「ねこのてさろん」で開催するなど)をし、広報を含め広く呼びかけ人集めの工夫をする。

II 組織・運営

【1. 組織・運営体制整備】

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	事業成果・今後に向けて
組織基盤の強化	継続	通年	・会員増員・確保に取り組む。 (目標450名正、賛助、後援会員)	①会員拡大委員会の設置 ②協会紹介パンフレットの改訂 ③イベント等参加団体・者への会員案内・勧誘 ④各新聞社・関係団体の広報媒体の活用 ⑤理事、会員との交流の機会を設ける	①会員の高齢化もあり、年々会員が減少している。会員拡大委員会の設置が急務である。 ②③協会紹介のパンフレットを2009年度末に改訂した。イベント等で団体・グループ・会員案内。(幸せの黄色いレシートキャンペーン・各イベントで随時配布) ④新聞社・関係団体の広報媒体の活用。 ⑤理事、会員との交流の機会を設けるために総会後の交流会(講座等)を設けている。連携の強化に努める。
運営体制の整備	継続	通年	・ボランティアと協調しつつ、迅速効率的な事務執行体制を築く。	①新公益法人移行事務体制の強化と、迅速な事務遂行 ②事務局体制の整備 ③理事、ボランティアスタッフ、事務局員との連携の強化 ④ボランティアスタッフ研修会の実施 ⑤評価・調査事業の管理・運営体制の整備(再掲) ⑥ボランティアコーディネート事業体制の整備(再掲)	①新公益社団法人認定申請の為、京都府の説明会・個別相談会に参加。全事業の公益目的は困難であり、公益目的比率を高める事業を展開する。(決算報告終了後申請) ②新事務局長就任5月。パート職員2名採用したが一身上の都合により退職。2011年度は臨時のアルバイトで対応。 ③理事、ボランティアスタッフ、事務局との意見交換・交流会を設けた。さらに連携の強化に努める ④ねこのてさろんの事業(再掲)2011年は講座等を増やし、一般・会員の参加を増やす。 ⑤継続のボランティアスタッフにボランティア保険の費用は協会負担(2011年分に充当)
ボランティアビューローの管理・運営	継続	通年	・場の有効な管理運営を目指す。	①利用状況の把握・管理 ②広報物の掲示・整理	①りすの会・お誕生日ありがとう京都友の会・NPOインホープ等の団体が交流の場として頻りに利用されている。当協会行事(ねこのてさろん・祭・発送業務・企画委員会・評価事業の審査会)も利用している。他の団体・一般にも声をかけさらに輪を広げたい。 ②広報物の展示の呼びかけをし、整理に心がけている。
財源の確保	継続	通年	・財源確保による安定的事業運営	①助成金の確保 ②ボランティア団体賠償保険の加入勧誘 ③会員拡大	①京都府地域再生力、京都共同募金会、京都府生命保険協会、京都新聞福祉事業団、国際ソロプチミスト京都、京都橋ライオンズクラブ、会員、一般等からの寄付。 ②他の団体・グループにも声をかけ、交流の場を設け、万一事故があった場合に備え、加入勧誘を進める。 ③公益社団法人認定をめざし、公益性のある事業を展開し会員を拡大する。